

地域協働 CBL

NEWS

VOL.11

[CONTENTS]

- ピックアップ!
- 2021年度活動報告
- 地域志向取組み
- 成果発表会出展一覧
- 学生団体活動紹介
- インフォメーション

10 8 2
12 5 7 1
11 9 6
面 面 面 面

PICK UP! 一年がかりで完成!

昨年度から、南砺市やなんとと未来支援センターなどと協働して制作を進めてきた「なんとSDGsボードゲーム」が6月に完成し、市長報告会を行いました。このゲームは、SDGsの普及啓発を目的に、親しみやすい南砺を舞台にした教材で、この報告会以降、県内だけでなく全国紙も含めた多くのメディアに取り上げられました。南砺市ではこのゲームを市内各学校や公民館などの公共施設へ配布したほか、一般家庭への貸出も行い、さらには多様な出前講座で用いるなど、広くSDGsの啓発に活用しています。



PICK UP! 体験会(出前講座)の実施!

ゲーム完成後、初めての体験会として南砺市立福野小の5年生約100人を対象とした授業が7月12日に行われました。当日はCOCOSメンバーのほか、南砺市エコビレッジ推進課の職員や地域おこし協力隊員も参加し、子どもたちの学びを支援しました。児童は目を輝かせ、歓声を上げながらゲームに取り組み、「SDGsの目標はもっと難しいと思っていたけど、地元の野菜を食べたり、マイバックを使ったりとか、私たちでも達成できるんだなと思った」という感想もありました。この様子も各メディアに取り上げられ、その連鎖でいろいろな出前講座の実施や、ゲームの貸出にも繋がりました。



PICK UP! 多くの反響により販売開始!



夏休みには、COCOSメンバーがガールスカウトや高校へ出前講座を実施するなど、実践の場が広がっていきましました。また南砺市外の団体などから貸出要請が多く寄せられ、県外の大学からも要望が届くほど反響がありました。その中には販売を期待する声も含まれたことから、追加製作を行い、11月から販売を開始することになりました。インターネットでの販売(電話・FAXでも注文可)のほか、南砺市内にも対面での販売拠点を設けています。



詳細は専用サイトをご覧ください。



PICK UP!

地域協働支援室のWeb サイト リニューアル!

昨年度より準備を進めてきた Web サイトのリニューアルを終え、運用を開始しました。新しいサイトには学内専用掲示板も設け、学生や教職員が地域情報をより得やすくなるようにもしています。新たに SNS (Twitter・Facebook・Instagram) も活用し始め、本学の地域協働の取組みをこれまで以上に発信していきます。

Twitter



Facebook



Instagram



2021年度 活動報告

氷見高校と氷見でSDGs！
地球・地域・わたしのつながりをふりかえる

中村トピックゼミ



中村トピックゼミでは、氷見高校生が地域探究を深めるプログラムと連動し、「問い」と「学校」についての学習を切り口に、SDGsや氷見市の概略について学び、氷見高校とその関係者など多くの人々と連携協力した地域協働学習を実施しました。SDGsカードゲームをそれぞれに体験した後のふりかえりをオンラインで共有したり、氷見を巡る合同フィールドワークを実施したりし、「暮らし」「教育」「海」「まち・地方」「医療・福祉」をテーマに、それぞれが立てた「問い」に対して、氷見高校生との探究を通して、考えを深めていきました。このように、同じような内容を学んでいる高校生と大学生が交流し、互いに刺激を受けながら学び合う機会が多く設けられたゼミとなりました。

富山市中心市街地ならびに西町商店街の活性化について

濱トピックゼミ

濱トピックゼミでは、富山グラウジーズと西町商店街振興組合、SOGAWABASEとの協働による街のにぎわいづくり活動のSNSによる情報発信に取り組みしました。まず富山市中心商店街を訪問見学し、また富山グラウジーズのチーム関係者からの講話や実際の試合運営ボランティアを体験しました。そのように学びを深めた後「推し【選手】が押し【商品・メニュー】を推す【PRする】企画」の取材を、SOGAWABASEの3店舗を舞台に、選手2名と行いました。取材内容を記事にまとめ、SNSで発信する際には、商店街の魅力が多くの人に届くように工夫を重ねました。ゼミ生にとっては、選手と触れ合えたことが貴重な経験で、これらの活動を通して富山の魅力に触れられたことも大きく、チームや商店街にとっても新たな連携を生み出せた取り組みとなりました。



地元でまちづくりー小杉を知り、地下道をデザインするー

小林教養ゼミ

小林教養ゼミでは、大学近隣の小杉地域におけるまちづくりをテーマにしています。今回は射水市からの依頼を受け、リニューアルされた小杉駅地下道のラッピングデザインを提案する活動に取り組みました。まずは現地の視察に始まり、地域の魅力を知るために、隣の街並みを巡り、市職員、展示館、神社などの地域関係者から話を聞きました。このようにして学んだ射水の魅力や、どのようなデザインならうまく発信できるのかを考えました。学期途中には、上級生との合同ゼミも実施し、意見交換も行いました。最終的には、地域の名所などが電車の車窓から見えるデザインと、竹内源造記念館に展示されている鰻絵(こてえ)をモチーフにしたデザインを提案しました。2月に工事が完了し、多くのメディアで取り上げられ、地域の魅力を発信する新たなスポットづくりに貢献することができました。



今回は射水市からの依頼を受け、リニューアルされた小杉駅地下道のラッピングデザインを提案する活動に取り組みました。まずは現地の視察に始まり、地域の魅力を知るために、隣の街並みを巡り、市職員、展示館、神社などの地域関係者から話を聞きました。このようにして学んだ射水の魅力や、どのようなデザインならうまく発信できるのかを考えました。学期途中には、上級生との合同ゼミも実施し、意見交換も行いました。最終的には、地域の名所などが電車の車窓から見えるデザインと、竹内源造記念館に展示されている鰻絵(こてえ)をモチーフにしたデザインを提案しました。2月に工事が完了し、多くのメディアで取り上げられ、地域の魅力を発信する新たなスポットづくりに貢献することができました。



**(株) 能作の社員とチームを組み、
社長に提案!**

清水教養ゼミII

1年清水ゼミでは後期15週、県内企業の(株)能作と課題解決型のゼミを行いました。課されたミッションは、「2023年度にはうちの稼ぎ頭になる企画を社長に提案せよ!」です。

学生15名は、産業観光、カフェ、錫婚、医療の4チームに分かれ、其々に能作の社員1名が加わりました。各チームは、

- 1.能作の主力の錫(すず)を用いた新商品の開発
 - 2.能作の認知度向上策
- の2つの切り口から案をまとめ社長にプレゼンしました。

その結果、3つの提案が採用された。「産業観光」チームが僅差で1位を勝ち取りました。学生はこの15週を通して、社会で求められる力と自己の能力のギャップを自覚し、卒業までに必要な知識・技術への気づきを成果として手に入れました。



**富山市中心市街地の
にぎわいづくりについて**

「働く場」という面から考える
濱トピックゼミII



今期の濱ゼミでは、街の活性化に結びつくような新たな視点の検討として、「働く場」という面から考え、起業やオフィス設置(都会から地方進出)する魅力について学生目線でPRすることをテーマとしました。まず富山市中心商店街を訪問見学し、その次の回では、商店街の方々から直接お話を伺う会を設け、少数のグループでの交流を通じ、市街地の情報とともに商店街の方々の思いにも触れることができました。その後、環境などの条件面やまちなか起業などの先行事例の調査をふまえ、以下の、3つの業種・建築業(建築事務所)、小売業(ネットショップ)、情報通信業(コンテンツ制作)での起業・企業移転がおすすめできるのではないかと考えました。

**富山の魚について知ろう!
持続可能なしろえび漁**

レネトピックゼミII

レネゼミでは富山県の漁業をテーマに取り上げ、富山県のPRや観光の活性化に繋げることを考えてきました。富山県の水産業に関する調査を行ったあと、県の水産研究所を訪問し、水産業の現状などについて講義を受けました。また持続可能な漁業を目指し、資源管理や働き方改革に取り組んでいる富山湾しろえび倶楽部から漁師の方をゲスト講師に招き、しろえび漁について学びました。

富山湾はその特異な地形からプラントンや伏流水、潮流などの面で、質の良い魚が豊富にいる好条件が揃い、「天然のいけす」と呼ばれています。しろえび漁では限られた資源を守るためプール制を導入し、持続可能な漁業に取り組んでいます。



しろえび倶楽部では、このような取組みを漁業者だけでなく、流通などの関係者や一般消費者とも協力して行うため、白えびの認知度や魅力を広げる活動も精力的に実施しています。

**とやまドローン学生交流競技大会への
参加/小学校向けのプログラミング教材の開発**

岩井専門ゼミ

岩井ゼミは、小学生を対象としたプログラミング教育の体験教室を企画しました。実施校は堀岡小学校で、富山ドローン学生交流会と協働しました。ドローン大会(とやまドローン学生交流競技大会)に出場し、ドローン操作に必要なプログラミング知識を、楽しみながら習得しました。Scratch(スクラッチ)、Python(パイソン)を用いたプログラミングでドローンを制御し、正確な位置で飛行を制御するためにミッションパッドを活用しました。大会は、プログラミング飛行クラスで準優勝を受賞しました。小学生のプログラミング教室を企画し、地域のプログラミング教育に貢献できました。今回の取り組みを通して、プログラミング教育に対する興味と学びを得ることができました。



小矢部市の山間部における
大気環境観測 2021

渡辺専門ゼミ



東アジア地域から大気汚染物質が北陸地方へ越境輸送されること
が問題になっていますが、昨年は
COVID-19による中国のロック
ダウンの影響で、大気汚染が改善し
ました。しかし、経済活動の再開に
より再び元の状態に戻ると予想され
ます。

そこで、小矢部市教育センターの一室に観測機器を設置し、オゾン濃度、二酸化硫黄濃度および粒径別粒子個数濃度の測定を行いました。測定結果から、2020年の冬季から春季の微小粒子個数濃度は、2018、2019年の同時期と比べ大幅に減少しており、2021年も減少傾向にあることがわかりました。また、二酸化硫黄濃度は昨年より全体的に減少していることがわかりました。今回の測定により、新型コロナウイルス流行以前と同程度にまで戻ると予想されていた大気汚染濃度は、未だに減少傾向にあることがわかりました。

富山市ファミリーパークの
『音風景』収録

森川専門ゼミ

森川専門ゼミでは「富山市ファミリーパークの音風景の収録」に取り組みました。録音には耳に取り付けたマイクを用いるバイノーラル録音を採用しました。この録音ではイヤホンで立体的な音を再現することができます。コロナ禍で満足に外出もできない中で、自然環境や動物園の音を聞き、その雰囲気を感じることができると期待できることでリラククス効果を期待できるほか、遠方からでも自然の動物や動物園の音を身近に体験できます。

今回は、バードハウスやニワトリ舎、子供動物園で録音しました。今後はファミリーパーク全域での録音も視野に計画中です。



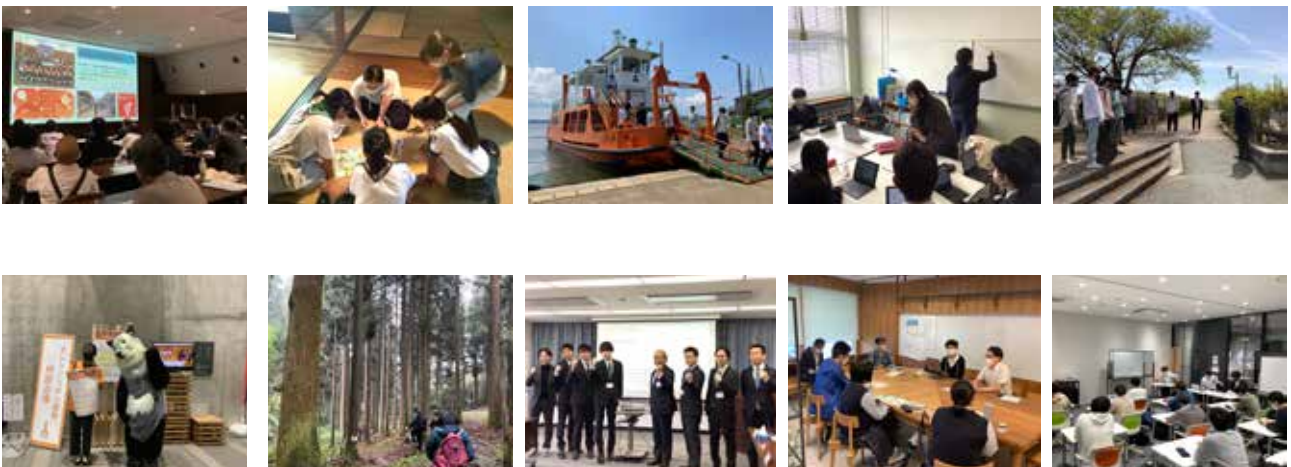
地域の運動教室における
レーダーを用いた簡易な
健康診断の実現に向けた研究

佐保卒業研究・専門ゼミ



佐保研究室では「地域の運動教室におけるレーダーを用いた簡易な健康診断の実現に向けた研究」に取り組みました。

高齢者が要介護になる原因として身体機能、認知機能の低下などがあり、現状は紙のテストや第3者による評価が多く、日常生活において介護が必要かどうかの判断が困難でした。そこで、レーダーを用いて非接触で健康状態を評価する手法を提案し、検証しました。射水市での健康教室において、転回着座運動の計測と認知機能テストを行い、これらのデータを分析しました。その結果、転回着座運動から得られたデータと身体・認知機能には相関があることがわかりました。健康診断の様式に新たな可能性が生まれました。





地域放送の役割を学ぶ

井戸教養ゼミⅡ



井戸ゼミでは、地域に密着した情報や災害時の災害状況などを伝えるコミュニティラジオの役割を学ぶとともに、コミュニケーション力を向上させることを目的に、エフエムいみずと協働して、ラジオの音楽番組を制作しました。今期は、まず社長から地域における役割について説明を受け、その後3グループに分かれて番組の企画を練り、収録に向けた準備を進めました。年末に放送される1時間の音楽番組で、大学生の推し曲を流す内容です。12月2日・9日・16日と3週にわたってグループごとに収録を行い、パーソナリティを体験しました。声のトーンや話すスピードを意識するなど、収録を通じて、自分の言葉で伝えることの大切さを学ぶ機会となりました。

富山県産圧縮スギ材で製作した純国産弦楽器の振動音響特性

寺島研究室

寺島研究室では、圧縮スギ材で製作した純国産弦楽器の振動音響特性について研究を進めています。研究の背景は、木材は弦楽器の製作に欠かせませんが、現在は海外産輸入木材が使われていることです。海外産輸入木材は価格高騰や入手困難などの課題もあり、代替材の確保が求められています。そこで富山県のスギ間伐材に目をつけ、ウクレレを製作しました。軽くて柔らかいので、そのまま使用しても音の響きが弱く楽器に適しませんでしたが、スギの木を圧縮することで、丸みを帯びた柔らかい音を出せるようになりました。このウクレレは市販され、2021年度の富山プロダクツの認定やウッドデザイン賞を得ることができました。

今後も改良を続け、富山ならではの音色を醸し出すウクレレをつくるべく予定しています。



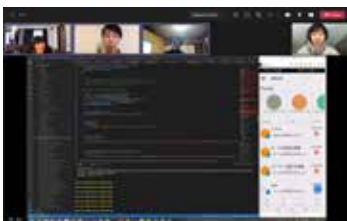
Connect you

富山の学生に向けた就活支援サービス

Core Creative Manage(CCM)

CCMは「Connect you」というアプリケーションを使い、富山県内での就職を定着させる活動を行いました。

「Connect you」とは、県立大生が就活に活用するためのアプリケーションです。県内定着の促進は富山県における課題です。「富山県に就職したい」と思う学生は、「県内出身者」で64%、「県外出身者」で9%でした。理由としては、富山県の企業に魅力を感じていないことが挙げられます。県立大生に県内企業の魅力が伝わっておらず、富山の企業を知らなすぎるのです。そこで、県内企業の情報・魅力を伝える場の提供を「Connect you」で行います。まずは、富山の大学生向けのSNSアプリケーションを開発し、富山の学生に需要があるのかを調査を行う予定です。



日本の伝統を世界に伝える

「DENIDEN」

DENIDEN

DENIDENは、職人のこだわりが正当に評価される世界をつくるため、職人とともに、情報技術を用いて伝産業界の課題を解決する活動をしています。

第一回北陸ビジネスプランコンテスト挑戦中、富山市に店を構える『喜人來人はぎ原』から注文いただいた、高岡漆器の代表的な技法である「青貝塗（あおがいぬり）」によって桜吹雪を表現した春にぴったりのお椀の完成報告会を開催しました。店主のご厚意でお椀料理を提供していただき、高岡漆器によって一層引き立つ料理の様を体感しました。

(株) LXD DESIGNと共同で開催した高岡漆器を学ぶオンライン配信授業では、天野漆器(株) 天野氏と(有) 武蔵川工房 武蔵川氏をお招きして、高岡漆器の歴史や特徴、螺鈿（らでん）ガラスの紹介や製作秘話をお話いただきました。



2021年度のCOCOS

地域協働研究会COCOS

地域協働研究会COCOSは、地域の方々と話し合いの中で、地域が抱える課題や魅力を見つけ、課題解決や魅力のPRのために、学生と地域が協力して活動している学生団体です。

昨年度から作成を続けてきた、「なんとSDGsボードゲーム」が完成し、COCOSメンバーが県内の学校や地域の交流会に参加して、子供から大人まで幅広い年代の方々にゲームを体験してもらいました。SDGsを楽しく学び、南砺市の魅力に気づいてもらうことができた体験会になったと感じています。また、完成したボードゲームの販売を行いました、全国各地の方々からご注文いただきました。

COCOSでは他にも地域協働に向けた取り組みを行っています。11月にはオレンジリボン運動のイベントに参加しました。



地域



協働した方々の声①

氷見高校 地域学習支援員 河原朱里

氷見高校では、地域との協働による探究学習を進めています。今年度2学年の探究学習において、年度当初から夏休みまでの半年間、中村秀規准教授のトピックゼミと協働させて頂きました。「氷見を舞台に問いを立てる」という共通テーマのもと、高校生と大学生と一緒に氷見でのフィールドワークを実施したり、互いに情報交換をしたりといった取り組み。時には特別に、高校生が大学生の授業にお邪魔させて頂いたという貴重な経験もさせて頂きました。

数回、コラボ授業を実施しましたが、やはり一番熱を帯びるのは「対話」の時間です。大学生から氷見の良いところについて質問され、一生懸命絞り出す高校生の答えに対して、「それはすごいね!」と大学生が素直に褒める姿がほほえましく感じました。また、高校生と大学生は、「自由に話していいよ」という時間を与えれば、自発的に進路の話や、学生生活、時には恋愛の話に花を咲かせており、終わるのが名残惜しそうな生徒の顔が見られたことがとても嬉しかったことを覚えています。

「先生」「大人の人」でなく「お兄さん・お姉さん」だからこそ伝えられることや、引き出せる想い、感情があるということを感じた協働事業でした。貴重な時間をありがとうございました。

県大ニュースの特集に!

本学の広報誌である「富山県立大学ニュース」130号(令和3年7月発行)に、特集記事「富山県立大学が取り組む『地域協働』とは一地域に出かけ、地域と共に学ぶー」が掲載されました。(県大ニュースは本学WEBサイトからご覧いただけます。)



令和 3 年度 地域志向教育・研究・学生自主プロジェクト採択一覧

本学では、学生が地域と主体的に関わり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく教員、学生による取り組みへの支援を行っています。今年、コロナウィルスの影響で応募・採択ともに例年より減少しましたが、教育・研究・学生自主プロジェクトの 3 枠で学内公募し、採択結果は下記の通りとなりました。

・地域志向教育プログラム

テーマ・概要	代表教員
地域小学生のための英語教室（2021年度） ー グローバル人材育成につながる英語教育支援 ー	教養教育 准教授 山崎 大介
リモート下における里山の教育効果の向上	情報システム 准教授 中田 崇行
夜の動物園の光の演出を考える	情報システム 准教授 中田 崇行
菜（すくも）づくりによる村おこし事業を通じた微生物発酵の体験	生 物 准教授 日比 慎

・地域志向研究

研究課題	代表教員
地域の特産物を用いた商品開発	教養教育 教授 福原 忠
beacon を用いた、高岡市および射水市における関係人口創出	教養教育 講師 林 智
県内産スギ間伐材を用いた純国産弦楽器の開発 (継続 2 年目：演奏音の減衰低減手法の開発とギター製作への展開)	機械システム 准教授 寺島 修
小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測 ー 大気環境の変遷評価と地域への情報提供 ー	環境・社会基盤 教授 渡辺 幸一

・学生自主プロジェクト

テーマ	学生団体・代表者
藍染を通しての地域活性化	ひまわりサークル 生物工学科 3年 堀内 玲那
You Tube を用いた職人のこだわりを直接学べる職人ラジオ	DEN-DEN 情報システム工学専攻 2年 山崎 祐貴
SDGs を広めるための取り組み	地域協働研究会 COCOS 機械システム工学科 3年 平野 勇心
富山県の大学生の県内定着促進	CCM (Core Creative Manager) 電子・情報工学専攻 1年 寺田 和真



氷見フィールドワークを実施！

地域協働支援室が企画するフィールドワーク第 1 弾として、氷見高校と連携した「氷見の定置網見学」を、8月2日(月)に実施しました。当日は氷見高校海洋科の実習船を特別にご用意いただきました。県立大学生、氷見高校生、各教職員が乗船し、氷見港を出て沖合の定置網の設置場所まで船を寄せ、海上からその様子を間近で見学することができました。

令和3年度前期 地域協働授業成果発表会

令和3年7月15日(木) 5団体、16日(金) 6団体が口頭発表形式で成果発表を行いました。
本学学生、教員、地域の関係者など2日間で約120名の参加がありました。



【第1日目】 7月15日(木)

- ① 「富山県産圧縮スギ材で製作した純国産弦楽器の振動音響特性」
寺島研究室 (機械システム工学科 寺島 修 准教授)
- ② 「地元でまちづくり
—小杉を知り、小杉駅地下通路をデザインする—」
教養ゼミⅠ (教養教育 小林 一也 教授)
- ③ 「とやまで SDGs と人間の安全保障を考える」
プレゼンテーション演習
(環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授)
- ④ 「とやまの新しい就活支援サービス — Connect you —」
Core Creative Manager (CCM)
- ⑤ 「2021年度のCOCOS」
地域協働研究会COCOS

【第2日目】 7月16日(金)

- ① 「富山市中心市街地ならびに西町商店街の活性化について」
—富山グラウジーズと西町商店街振興組合、SOGAWA BASE
の協働による街のにぎわい活動のSNSによる情報発信—
トピックゼミⅠ (教養教育 濱 貴子 講師)
- ② 「氷見高校と氷見で SDGs !
地球・地域・わたしのつながりをふりかえる」
トピックゼミⅠ (環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授)
- ③ 「県大お弁当プロジェクト
～射水市の飲食店を応援する試み」
トピックゼミⅠ (情報システム工学科 榎原 一紀 准教授)
- ④ 「とやまの新しい就活支援サービス — Connect you —」
Core Creative Manager (CCM)
- ⑤ 「職人ラジオ～職人から伝統工芸のこだわりを学べる
オンライン授業～」
DEN-DEN
- ⑥ 「2021年度のCOCOS」
地域協働研究会COCOS

令和3年度後期 地域協働授業成果発表会

令和4年1月20日(木)7団体・21日(金)4団体が、ポスターセッション形式で発表を行いました。予定では「対面+オンラインのハイブリッド開催」でしたが、急遽完全オンライン開催となりました(オンラインサービス「oVice」使用)。

本学学生、教員、地域の関係者など、2日間で約220名の参加がありました。

【第1日目】 1月20日(木)

- ① 「(株)能作の社員とチームを組み、社長に提案！」
～ミッション：うちの稼ぎ頭となる企画を提案せよ！～
教養ゼミⅡ(教養教育 清水 義彦 准教授)
- ② 「地域の運動教室におけるレーダーを用いた簡易な健康診断の実現に向けた研究」
卒業研究・専門ゼミ(知能ロボット工学科 佐保 賢志 講師)
- ③ 「とやまドローン学生交流競技大会への参加と小学校向けのプログラミング教材の開発」
専門ゼミ(知能ロボット工学科 岩井 学 教授)
- ④ 「富山市ファミリーパークの音風景の収録」
専門ゼミ(知能ロボット工学科 森川 大輔 講師)
- ⑤ 「小矢部市の山間部における大気環境観測 2021」
専門ゼミ(環境・社会基盤工学科 渡辺 幸一 教授)
- ⑥ 「Connect you
～富山の学生に向けた新しい就職支援 サービス～」
Core Creative Manager (CCM)
- ⑦ 「COCOSの活動」
地域協働研究会COCOS



－ 出展ポスター例 －



【第2日目】 1月21日(金)

- ① 「富山市中心街地で起業 or オフィス設置(都会から地方進出)する魅力について学生目線でPRする」-街のにぎわいづくりについて「働く場」という面から考える-
トピックゼミⅡ(教養教育 濱 貴子 講師)
- ② 「持続可能なしろえび漁」 / 「富山の魚について知ろう」
トピックゼミⅡ(情報システム工学科 RENE.Antonio 講師)
- ③ 「日本の伝統を世界に伝える『DEN-DEN』」
DEN-DEN
- ④ 「COCOSの活動」
地域協働研究会COCOS



－ oVice の画面 －





COCOS活動紹介①

SDGsイベントへの参加

COCOSでは活動の一環として、他大学や高校生、また県内の事業者の方々が集うSDGsをテーマにしたイベントにも参加しています。

7月30日(金)に富山県民会館で開催された富山県SDGs宣言推進フォーラムにて県内の事業者や団体の方々に向けて活動発表を行いました。また、1月29日(土)には富山国際会議場で開催された富山市SDGs学生リーダーズミーティングにオンラインで参加し、県内の学生団体の皆さんや海外の大学生と意見交換をしました。

他にも、「SDGsで考える射水の魅力・課題」をテーマに大学コンソーシアム富山が実施した「学生地域リーダー塾」にCOCOSメンバーが参加し、オンラインにて他大学の学生と共に、多文化共生や、持続可能な地域づくりについて考えました。



COCOS活動紹介②

オレンジリボン運動

11月3日(水)に氷見市ふれあいスポーツセンターで、富山県立大学・富山短期大学・富山県立氷見高校の3校の学生と、女子ハンドボールチーム「アランマーレ富山」が協働し、児童虐待防止の啓発イベントを実施しました。

オレンジリボン運動とは、児童虐待防止を啓発するために、「子どもの虐待防止」の象徴として「オレンジリボン」を広める市民運動のことです。同日行われたアランマーレ富山 VS イズミメイプルレッズの試合を観戦に訪れた方を対象に、センターの一角にイベントスペースを設け、啓発ポスターの展示、オリジナル啓発動画の上映、募金活動、オレンジリボン作成ワークショップを行いました。

COCOSはオレンジリボン作成ワークショップの参加者に氷見産品が当たる抽選会を実施しました。試合会場にいらした老若男女問わず、幅広い方々に参加していただきました。イベントの展示物やブースをみて「何のキャンペーンなのか?」と問いかけてくださる方もいらっしやり、多くの方にオレンジリボン運動について紹介することができました。イベントを通じて児童虐待防止への関心や賛同に繋がられたのではないかと感じています。



大学コンソーシアム富山「学生地域リーダー塾」

9月19日～20日に大学コンソーシアム富山による「学生地域リーダー塾」が開催されました。「SDGsで考える射水の魅力・課題」をテーマに、県内の高等教育機関の学生、教職員、射水市職員、地域関係者など、83名が参加しました。対面開催は叶わなかったものの、Miroなどのオンラインツールを駆使し、また理解度を高めるためのグラフィックレコーディングも活用し、参加者間での交流や対話を重視したワークを実施しました。





教員

〜協働した方々の声②〜

教養教育センター 濱 貴子

2014年4月に本学に着任してから、この春で8年になります。着任当初から地域協働授業を工学部2年生対象のトピックゼミにて実施してまいりました。テーマも「地域企業経営者から科学技術と社会、技術者としてのキャリア形成について学ぶ(2014年度)」「地域の科学技術の先駆者に学ぶ(2015・2016年度)」「商店街活性化(2017・2018・2019・2020・2021年度)」と移り変わりがながら、地域のさまざまな方々と協働させていただきなで、半期という短い期間にもかかわらず、学生たちがぐんぐん成長していく姿に毎回驚いております。地域の発展に尽くされた／尽くしておられる企業の方々や商店街活性化に取り組んでおられる商店街の方々に実際にお目にかかってお話を伺うなかで、その熱意やバイタリティーに触発され、学生自身も当事者となって今後の地域のことをともに考えさせていただけるという貴重な経験の賜物であると思います。また、授業の最後に開催される成果発表会も、スライドやポスターを締め切りまでにチームでまとめあげたり、多くの方々の前に立って発表したりする経験を積むことができ、それらの経験が自分に対する信頼を高めることにつながっていると感じております。授業を重ねるごとに凛々しく・たくましくなっていく学生たちに伴走できる喜びを感じつつ、今後も学生たちとともに楽しく地域協働授業を継続してまいりたいと思います。

卒業生

〜協働した方々の声③〜

知能ロボット工学科 山浦 稜太

2022年3月卒業

私の大学生活・地域協働研究会COCOSでの活動を一言で表すと「虹色の4年間・ZIP」だと思います。圧縮しないと書き表せないほど莫大な経験と、十人十色な個人の協働から生まれる活動のカラーfulnessが強く印象に残っているからです。

私が代表を務めた2020年は、コロナの影響で活動が制限された状態でのスタートでした。社会の急変に戸惑い、孤独や不安と戦った1年でした。そのような時でも、仲間の支えや、協働先の方々をサポートがあったおかげで、コロナ禍での新たな「協働」に挑戦し続けることができました。このような状況の中での活動が、南砺市と協働製作した「なんとSDGsボードゲーム」でした。離れた場所にいる個人や地域の想いを結集させてできた、カラフルなゲームとなりました。COCOSの活動に「協働」は付き物であり、そこには「責任」が伴います。代表として、メンバーにその「責任」について考えてもらえるよう、一人一人に明確な作業分担を行うなどの工夫をしてきました。そのような仲間との苦楽の積み重ねが私の学生生活を「虹色」にしたと思っています。

最後に、大学生活の中で関わった皆様に心より感謝をし、結びとさせていただきます。



卒業生

〜協働した方々の声④〜

環境・社会基盤工学科 渡辺 真妃

2022年3月卒業

約4年間、地域協働研究会COCOSを通じて様々な活動に関わらせていただきました。私のなかで1番印象に残っているのは、2年次に高知県で開催されたLINKtoposの活動です。LINKtoposでは、全国の公立大学の学生がワークショップ等を通じて交流を行います。そのときのテーマは「防災・減災」で、南海トラフ巨大地震で日本最大の津波がくると想定されている高知県黒瀬町を舞台に、町長の講演を聞いたり津波避難タワーへ登頂したりしました。そこで、町長をはじめ住民みんなが前向きに防災と向き合っている姿を見て、防災に対するイメージが変わったとともに、私も自分事として防災に向き合わなければならぬと感じました。また、異なる環境に住む学生同士が意見を交わすことで、様々な考え方に触れることができました。一人一人がこれまでに学習したことや経験したことを踏まえて自分の意見を持っており、感心すると同時に人と関わることの面白さを感じることもできました。COCOSの一員として活動していく中で、様々な人と関わり多くの刺激を受けました。この経験は、COCOSに所属していたからこそできたことであると思っています。

今後も人との関わりを大切にしながら、社会人として歩んでいきます。



オレンジキャンペーン in 射水～がんばる女性をみんなで応援～

3月8日の国際女性デーに合わせ、女性のエンパワーメントやジェンダー平等について啓発するキャンペーンを、今年も射水市とアランマーレ富山、本学が連携して実施しました。今回から、海王丸や小杉駅地下道でのライトアップなどの新しい取組みも始め、輪を広げることができました。



地域協働研究会 COCOS メンバー募集

地域協働研究会 COCOS は、地域が抱える課題を、地域の方々と対話する中で探り出し、地域の方々と協働しながらその課題解決を目指して活動している学生団体です。インターネット等で活動について情報発信しているので、フォロー & 応援をお願いします。

Twitter



Instagram



Web site



随時メンバー募集中!

活動場所：射水キャンパス中央棟 1F 地域協働支援準備室 mail: tpu.cocos@gmail.com

地域の皆さまへ 情報掲載フォーム

Web サイトのリニューアルに伴い、学内での情報周知を希望する受付フォームを設けました。掲載を希望する地域情報をお寄せください。詳しくはこちら。



支援室新メンバー加入

初めまして。令和3年10月より、地域協働支援室の事務となりました平川江利子です。宜しくお願いします。

富山県は初上陸です。1年足らずですが、色々な新たな発見に対し日々アップデート中です。支援室は、新しい知識を自分の中にインプットできる大切な環境です。人は経験から色々なことを学ぶことができるそうです。これから、仕事を通じて素敵な場所や人と巡り会えることがとても楽しみです。支援室でお待ちしております。

COC から CBL へ

これまで文部科学省による地(知)の拠点整備事業 = Center Of Community 事業 [採択期間: H25~29年度] の略称: COC を継続して用いていましたが、今年度より英語での略称を CBL (Community Based Learning) 事業と変更しました。今後も大学キャンパス内だけに留まることなく、地域を舞台に、地域の皆さんと学び合う取組みを継続していきます。



公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室
<http://tpu-cbl.net>
 〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
 射水キャンパス (中央棟 1階 N-103)
 TEL:0766-56-7500 (内線 1255) FAX:0766-56-8022
 E-mail:kyodo@pu-toyama.ac.jp
 (記事: 地域協働研究会 COCOS)



令和4年3月